

令和元年9月

看護部ニュース

多重課題編

ラダーレベルⅠ

4月に入職して5か月が過ぎた新人看護師。毎日業務に奮闘している中、多重課題研修が行われました。

この研修は病棟で実際に起こり得る状況を設定したロールプレイング形式で行います。対応する患者さんの背景や状況設定の説明を受け、自分なりに優先順位を考えてから病室へ行き一人ずつ実施します。その後グループワークで話し合い、気づいたことや留意した点などを話し合っ

シミュレーションでは教育担当の先輩看護師がさまざまな患者さんになりきります。
点滴交換が必要なAさん。更新のための準備をしていると隣のベッドのBさんに「痛い。痛いから痛み止めが欲しいわ」と呼びかけられます。また介助が必要なCさんには「トイレに行きたい」と訴えられます。
Cさんには認知症もみられます。



痛いんですよね、と手を添えてあげていました。

痛み止めを欲しがるBさん。
「お待ちください」と言われたけれどいつまで待てばよいのかしら・・・
すぐに効くのかしら、今飲んだら次はどのくらいで飲めるのかしら・・・
色々な不安や疑問を抱えています。

安心するね



患者さんの目を見て話を聞きました。

トイレに行きたいCさん。
認知症もあり「お待ちください」の指示が通りません。「家に帰りたい」「タクシーを呼んでほしい」様々な訴えをします。
とうとう1人で立ち上がり転んでしまいました。





忙しさの中でも患者さんに
寄り添う看護を忘れずに・・・

入職して半年の新人看護師達が少しずつ
成長している姿を暖かく見守りながら時
には厳しく指導します。



多重課題では危険の予知、優先順位の判断が重要になります。
様々なシチュエーションにどのように対応するか、何を優先すべきか、ただ「お待ちください」と言うだけではなく、患者さんの気持ちに寄り添った看護ができるようになることがポイントです。
グループワークでは「焦ると何をしているのか分からなくなった」「全て中途半端になってしまった」「慌てて手指衛生を怠り安全を脅かしてしまった」などさまざまな反省がありました。

教育担当先輩からの一言。

「患者さんの訴えに優先順位はつけられません。痛いのもお手洗いに行きたいのも平等です。ただ優先順位をつけないければ業務はすすまない事を理解すること。だけれども『優先順位』ばかりにこだわって患者さんに寄り添う『看護』を忘れずにいて欲しいです。痛みを訴える患者さんに「ただお待ちください」だけではなく、手を添えてあげる、『痛いですよ』一言声をかけてあげるだけで待つ時間が少し短く感じて安心できるかもしれません。そんな『看護』を目指して欲しいです。」

患者役になりきってくれた先輩たちからは「きちんと説明してくれて納得できた」「目を合わせて話をしてくれて安心できた」「共感してくれてすごく嬉しかった」「優しくしてくれてありがとう」と、沢山の嬉しい言葉をいただきました！！



**国際医療福祉大学
市川病院**

〒272-0827

千葉県市川市国府台 6-1-14

電話 047 (375) 1111

看護部サイトはこちら⇒

